
夏の日

RYU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の日

【コード】

N3592C

【作者名】

RYU

【あらすじ】

夏の勉強会での、女の子の思いを書いた小説

太陽の光がコンクリートに反射して、日本の気温を上昇させる。
夏の晴れ間は、私たちの体力を奪う。気持ちを重くする。

今日は、夏休み中の小学生にはお決まりの地区ごとの勉強会。

「あつついな〜」

私が大好きな先輩は宿題を投げ出して愚痴を言った。

先輩は6年。私は4年。

今日の私の服装は、白い半袖のパーカー。私の1番のお気に入り。

「今日はこれでお開き」

先輩がそういうとみんな宿題を鞆に入れて帰る準備を始める。

「稟。帰ろうか」

私は、今年1年になったばかりの妹に声をかける。

「うん」

稟が私の方を向いた瞬間に、稟の筆箱が床に落ちる。

「しっかりしないと…」

私が稟の筆記用具を取ってあげようとする前に、先輩が拾い始めていた。

「はい、どうぞ」

先輩が全部を拾い上げ稟に渡した。

先輩の笑顔と共に・・・。

「ありがとう」

稟は少し顔を赤くしてそう答えた。

そんな稟の姿を見て、私は胸の中がギュツとした。

私がかもし筆箱を落としても、先輩は私に笑顔を見せてくれるだろうか？

稟の帰る準備が終わったので、私と先輩と稟で家のほうに向かう。勉強会の後はいつも一緒に帰る。たいした意味はない。ただ、家

の方向が同じだけ。

去年は先輩と2人きりだったのに……。

ついさつき、稟の駄々によって先輩は稟を肩車をしてあげている。

稟は先輩の肩の上で上機嫌だ。

私は稟とは違って、先輩に迷惑をかけることはしたくない。でも、

何でも言える稟はいいと思う。気が楽で……

私は稟に嫉妬しているのかもしれない。

3人で道を歩く。田舎道のために足元は良くない。

そんな道であるにもかかわらず、稟は先輩の上で遊んでいる。

先輩は稟に必死で、私のことは見てもくれない。

ふと、私は石に躓く。

体制を崩して前に倒れる。

地面が近くなる。

(い、いや)

心の中で、出した言葉は先輩にはきくと届いてない。

「うっっ」

不意に首が引っ張られる。

私は、転んではいけないようだ。

でも、息ができない。苦しい……。

私が体制を立て直すと、苦しさは消えた。

どうやら、先輩が私が倒れる瞬間にパークアのフードを引っ張って倒れるのを防いでくれたようだった。

「な、なにをするのよ!」

自分でも思っていないことが言葉に出る。

「ごめん」

先輩は複雑な表情を浮かべる。

当然だ。助けてあげたつもりなのに、怒鳴られたのだ。

「苦しかったんだから……」

そう、私は苦しかった。息ができないくらい。

さつき引つ張られる前からずっと・・・
稟と仲良くする先輩を見てずっとずっと・・・
「でも、ありがとう」

次に出た言葉は、心からの言葉だ。本当の気持ち。
助けてくれてありがとう。

稟の面倒を見てくれてありがとう。

そして・・・私を見ていてくれてありがとう。

先輩は、呆気に取られた顔している。

肩車されている稟も同じ顔をしている。

私はそんな2人を置いて歩き出す。

「早く帰ろうよ」

そうだ、私もかえろう。

いつもの私に・・・

嫉妬する前の私に・・・

ただただ先輩が好きな私に・・・

私には関係ない。

私は先輩を好きでいれば良い。

その後を決めるのは先輩なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3592c/>

夏の日

2011年1月20日15時02分発行